



分科会 1 質の高い服薬指導を目指して —患者の利益のために—

W-01-03 服薬指導に必要なコミュニケーション能力

い て ぐ ち な お こ
井 手 口 直 子

帝京平成大学薬学部 准教授

(日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 常任理事)

本セッションでは以下のことについて、会場の皆様と考えていきたいと思っています。

大学教育でのコミュニケーションを現場でどうつなげるか・・・？

薬学コアカリキュラムでのA「ヒューマニズム」で明記された“コミュニケーション”の教育は、薬学生の能力を向上させることができたでしょうか？そして5年次実務実習先での患者コミュニケーションにおいて、大学でコミュニケーション教育を受けなかった指導薬剤師が、経験とキャリアで習得したコミュニケーションとそれはどのようにつながるのでしょうか？現場のベテラン薬剤師が行うのコミュニケーションでの問題解決を例に引き、患者対応におけるより実践的なコミュニケーションの在り方を考えます。

コミュニケーション教育で万事丸く収まるか・・・？

医療のみならず、現代社会の多くの問題は人とのコミュニケーションが絡んでいると言ってよいでしょう。しかし、我々医療にかかわる薬剤師は全て「コミュニケーション」を重視すればよいのでしょうか。知識・技能・態度3点を高い水準で発揮することが6年制の薬学教育の要です。薬剤師の役割は目の前の患者の薬物療法の質の向上であり、ファーマシューティカルケアはそのために絶え間ない問題解決を行うことです。

その際にも薬剤師のコミュニケーション能力の発揮はなくてはならないものですが、果たしてそれはどのような根拠で行動すべきなのでしょう。

あなたはどのような倫理をベースに意思決定していますか・・・？

薬剤師が患者の問題解決にかかわる際に、無意識にその薬剤師の規範となす倫理に従って行動しているものです。コミュニケーション同様、4年制では学ぶ機会の少なかつた倫理をベースにしてもう一度、今回服薬指導に必要なコミュニケーションについて考えてみませんか。